

6 人間科学研究科

教育研究上の目的（神奈川大学大学院人間科学研究科規程より抜粋）

人間科学研究科

本研究科の博士前期課程は、人間科学の多様な分野における専門的かつ応用的思考や人間科学に関する専門知識及び技術を身に付け、現実的な問題解決能力を備えた高度な専門職業人として社会に貢献し得る、知性豊かな人材の育成を目的とする。

本研究科の博士後期課程は、博士前期課程が目的として掲げる人間科学的思考、専門知識及び技術をさらに向上させ、優れた創造的研究及び教育活動を行うことができ、多様な社会の要請に応じて社会の価値創造に貢献し得る知的人材の育成を目的とする。

人間科学専攻 人間科学研究領域 博士前期課程

人間科学（応用実験心理学、スポーツ健康科学、地域社会学）における専門的かつ応用的思考や人間科学に関する専門知識と技術を身につけ、現実的な問題解決能力を備えた専門職業人の育成を目的とする。

人間科学専攻 人間科学研究領域 博士後期課程

人間科学（応用実験心理学、スポーツ健康科学、地域社会学）における高度な研究・教育を推進する専門的知識と技術を兼ね備えた自立した研究者、教育者または企業における企画・立案者などの高度な専門職業人の育成を目的とする。

人間科学専攻 臨床心理学研究領域 博士前期課程

専門教育の中でも特に実習や演習を重視し、現場での実地体験を積み重ね、個人や社会の臨床心理学的課題への対処の方略を獲得し、支援資質を陶冶する。密度の濃い個人指導を通じて臨床心理技術の実務者、特に臨床心理士、公認心理師などの専門職育成を目的とする。また、修士号取得者として、人間の福祉に関わる諸課題への科学的考察能力、考察の基盤となる科学的資料の収集能力、科学的知見の社会への還元能力の素養を身につける。

人間科学専攻 臨床心理学研究領域 博士後期課程

高度な研究能力と臨床力を涵養し、心理臨床分野における自立した研究者、また心理臨床家の指導者の育成を目的とする。

教育目標

人間科学専攻 博士前期課程

本学の教育目標及び本研究科の教育研究上の目的等を踏まえ、人間科学研究科人間科学専攻博士前期課程では、社会の多様な要請に応える能力、すなわち社会の価値創造に貢献し得る高度な専門職業人としての能力を育てることを目標とする。

現在、我が国は少子高齢社会を迎えて人口の減少期に入り、経済・社会も発展や成長を目指す段階から持続可能な社会を目指す成熟期に入ろうとしている。その中で社会をイノベートするには、既存の特定分野のスペシャリストが提供する既存の価値観や方法を超えた、学際的な視点から新しい価値観や方法論を提供する能力が必要である。

本課程では人間科学の分野に関する専門的な知識、社会が求める研究を発見し追求できる研究力、人と社会に対する柔軟で幅広い視野と主体的かつ総合的な判断力を持って、学際的な視点から社会に新しい価値を提案し、それを実現できる能力を身につけさせることを教育目標として定める。

人間科学専攻 博士後期課程

本学の教育目標及び本研究科の教育研究上の目的等を踏まえ、人間科学研究科人間科学専攻博士後期課程では、人間科学の分野に関する博士として必要な高度な専門知識と専門能力を駆使して、多様な社会の要請に応じて社会の価値創造に貢献する能力を育てることを目指す。

現在、我が国は世界に先駆けて超少子高齢社会を迎えている。また、世界的に経済成長が停滞し、どのような政策や対策が適切なのか、人類史上に前例がない困難な事態に直面していると言える。こうした状況においては、既存の価値観や方法では人間の幸福のあり方を提案できない事態が訪れることが予想される。

本課程では博士号取得者に対して、既存の価値観や方法論による閉塞性を打破して、新しい人間の幸福のあり方、すなわち新しい価値観を社会に提供できるように、人と社会に対する柔軟で幅広い視野と、主体的かつ総合的に社会が求めることを課題として設定できる判断力、さらに研究活動を推進できる創造力とその成果を社会に周知し新しい世論形成の力となれる発信力を身につけさせることを教育目標として定める。

人間科学専攻 人間科学研究領域 博士前期課程

本学の教育目標及び本領域の教育研究上の目的等を踏まえ、人間科学研究科人間科学専攻博士前期課程人間科学研究領域では、人間科学（応用実験心理学、スポーツ健康科学、地域社会学）の専門知識と技術を身につけた専門職業人を育成することを、教育の最終の目標としている。

現在、我が国は少子高齢社会を迎えて人口の減少期に入り、経済・社会も発展や成長を目指す段階から持続可能な社会を目指す成熟期に入ろうとしている。その中で社会をイノベートするには、既存の特定分野のスペシャリストが提供する既存の価値観や方法を超えた、学際的な視点から新しい価値観や方法論を提供する能力が必要である。人間科学の専門職業人には社会の多様な要請に応じて、新しい価値観や方法論を提案し、提供する能力が求められている。

本課程では、人間科学の分野に関する専門的な知識、社会が求める研究を発見し追求できる研究力、学際的な視点から社会に新しい価値を提案し、それを実現できる能力を身につけさせることを教育目標として定める。

人間科学専攻 人間科学研究領域 博士後期課程

本学の教育目標及び本領域の教育研究上の目的等を踏まえ、人間科学研究科人間科学専攻博士後期課程人間科学研究領域では、人間科学において高度な専門的知識と技術を身につけた研究者や高度専門職業人を育成することを、教育の最終の目標としている。

現在、我が国は世界に先駆けて超少子高齢社会を迎えている。また、世界的に経済成長が停滞し、どのような政策や対策が適切なのか、人類史上に前例がない困難な事態に直面していると言える。こうした状況においては、既存の価値観や方法では人間の幸福のあり方を提案できない事態が訪れることが予想される。その中で、人間科学の研究者や高度専門職業人には、現状の閉塞感を打破して、新しい価値観や方法論を社会に提供できる正しい知識や専門的な能力が求められている。

本課程では博士号取得者に対して、当該分野に関する博士として必要な高度な専門知識と専門能力、及び主体的かつ総合的に社会が求めることを課題として設定できる判断力、さらに研究活動を推進できる創造力とその成果を社会に周知し新しい世論形成の力となれる発信力を駆使して、多様な社会の要請に応じて社会の価値創造に貢献する能力を育てることを教育目標として定める。

人間科学専攻 臨床心理学研究領域 博士前期課程

本学の教育目標及び本領域の教育研究上の目的等を踏まえ、人間科学研究科人間科学専攻博士前期課程臨床心理学研究領域では臨床心理技術の実務者、特に臨床心理士、公認心理師などの専門職育成を教育の目標としている。また、同時に修士号取得者として、人間の福祉に関わる諸課題への科学的考察能力、考察の基盤となる科学的資料の収集能力、科学的知見の社会への還元能力の素養を身につけることも目標としている。

現在、我が国の企業はグローバルな経済競争に晒され、1990年代まで続いた経済の高度成長期に形成されていた終身雇用制、年功序列の昇進及び昇給の体系が見直される時代に入り、国民は生活者・労働者としてのあり方を見直すように求められている。この急激な変化の中で考え方の変化を求められ、その戸惑いの中で深い困惑や心理的な問題に悩む人々が増えている。このような状況では欧米から輸入してきた既存の臨床心理学では対応困難なことが予想され、臨床心理技術者は時代の動きの中で心がどのように動くのか、どのような支援を行えば心と行動が安定化に向かうのか、適切に見ぬく高度な専門性が求められている。

本課程では、偏りのない臨床心理学及び周辺分野の体系的な学修、学内及び学外専門機関実習経験、現代の我が国で求められている臨床心理学の基礎研究を通して、生活者・労働者としての人を深く理解・受容し、適切な支援を提供できる高度な専門性を育てることを教育目標として定める。

人間科学専攻 臨床心理学研究領域 博士後期課程

本学の教育目標及び本領域の教育研究上の目的等を踏まえ、人間科学研究科人間科学専攻博士後期課程臨床心理学研究領域では、現代社会の臨床心理学的問題に対応できる新しい心理臨床を提案できる指導者レベルの心理臨床家の輩出を教育の最終の目標としている。

現在、我が国の企業はグローバルな経済競争に晒され、1990年代まで続いた経済の高度成長期に形成されていた終身雇用制、年功序列の昇進及び昇給の体系が見直される時代に入り、国民は生活者・労働者としてのあり方を見直すように求められている。この急激な変化への戸惑いから心理的な問題に悩む人々が増えている。また、急激な少子高齢社会の展開によって、高齢者、若年者及び現役世代の社会における役割や位置づけが変わる中で、国民全体が戸惑いを禁じ得ない状況もある。このような状況に対応するべく、臨床心理学は常に時代の動きを読み、適切な支援を用意することが求められている。

本課程では時代のニーズに対応した臨床心理学研究を通して、現場の臨床心理士をイノベートし、生活者・労働者としての人を深く理解・受容し、次世代の臨床心理学をリードする高度な専門性を育てることを教育目標として定める。

研究科・専攻の基本方針（3つのポリシー）

人間科学研究科 人間科学専攻 博士前期課程

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本研究科博士前期課程のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した修士論文が専攻内規に則って審査され合格と判定された者は、以下に掲げる能力を身につけていると判断され、修士（人間科学）の学位が授与される。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力
 - (1) 人と社会に対する柔軟で幅広い視野と、主体的かつ総合的な判断力を身につけている。
 - (2) 問題を的確に把握し解明する能力と技術力を身につけている。
2. 国際的感性とコミュニケーション能力
 - (1) 実践的に課題解決策を提案できる専門職業人としての能力を身につけている。
3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能
 - (1) 人間科学の分野に関する修士として必要な専門知識を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本研究科博士前期課程では、人間科学のそれぞれの専門分野において、自立して研究活動を行うに足る研究能力を修得させることを目標とする。そして、その基盤となる豊かな学識を培う教育のうえに、自ら研究課題を設定し、研究活動を実施する等、学生の創造力や自立力を磨く教育を行うとともに、研究活動の企画や管理等の運営管理能力を高める教育を行うこととする。こうした教育目標を達成するために、以下のカリキュラム・ポリシーを設定している。

1. 教育課程の編成・実施

- (1) 社会の変化に対応し得る統合された知の基盤を与えるため、他の研究領域、他の専門分野の開講する講義科目を履修できるように柔軟なカリキュラムを設定している。
- (2) 各専門分野における問題を的確に把握し解明する能力と技術を身につけさせるため、「人間科学特別研究（演習）」を必修とし、指導教授による指導を密にし、自主的な学びを促す。
- (3) 人間科学研究領域においては「人間科学事例研究」を必修とし、修士論文の課題を設定し修士論文を制作する前段階として文献研究、現場調査、学会発表等の研究指導を行う。そして、理論的知識を基礎として、実際にそれらを応用する能力と課題に対する柔軟な思考能力や深い洞察力に基づく主体的な行動力を身につけさせる。
- (4) 臨床心理学研究領域においては修士論文の課題を設定し修士論文を制作する前段階として文献研究を通じた理論的基礎に根ざした現場調査、学会発表等の研究指導を行う。さらに臨床心理士、公認心理師など臨床心理技術を活用する専門職を目指して臨床実習科目群と専門職の資格取得に関わる科目を履修し、実践的教育を通して、実際にそれらを応用する能力と課題に対する柔軟な思考能力や深い洞察力に基づく主体的な行動力を身につけさせる。
- (5) TA(ティーチング・アシスタント)に就くことで、教育者として教育能力を高める経験を積む機会を用意する。

2. 教育の方法と評価

- (1) 研究指導は指導教授のもとでの演習を基本として行われ、専門分野の知識を深め、技能を修得するよう支援する。その上で、柔軟性のあるカリキュラムによって関連分野の複数の教員による多様な指導が受けられ、自主的に学問する能力を磨くことができる。
- (2) 徹底した個別指導により、独創的な発想に立った研究と、その成果に基づく論文の完成へと導く。
- (3) 計画・遂行・発表を含む修士論文研究の中間審査及び本審査を介して、研究課題解決能力とプレゼンテーション・コミュニケーション能力の評価を行う。これらの評価は、公正性と厳格性を保つため、複数の専門教員で実施している。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

1. 大学院教育によって培う能力

人間科学研究領域

- (1) 人間を身体や心理、社会という観点から実証的に分析する能力、そうして得た知見を応用し現代社会に還元する能力を養成する。

臨床心理学研究領域

- (1) 研究から得られた科学的知見を現代社会に還元する能力と、それに根ざした臨床心理の実務能力を徹底したスーパービジョン・システムと少人数教育を通して養成する。

2. 本専攻の求める入学者

人間科学研究領域

- (1) 人間及び人間社会に関する深い関心を有する人
- (2) 人間科学（心理学、健康科学、地域社会学等）に関連する基礎知識を学部卒業程度に備えた人
- (3) 福祉や他者支援に意欲を有する人

臨床心理学研究領域

- (1) 人間及び人間社会に関する深い関心を有する人
- (2) 臨床心理学、及び臨床心理技術の習得を目指す学習を可能とする学部卒業同等の臨床心理学、心理学、関連科目の基礎知識を備えた人
- (3) 臨床心理士、公認心理師などの専門職として個人の福祉と社会の発展への貢献に意欲を有する人

3. 大学までの能力に対する評価（選抜方法）

本研究科博士前期課程では、以下の3種類の入学試験を実施している。

- (1) 一般入試：大学卒業あるいは卒業見込み等の一般的な応募資格者を対象としている。研究領域の専門知識、語学（英語）、及び口述試験の評価により選考を行う。
- (2) 社会人特別入試：一定の社会的経験を積んだ社会人を対象としている。人間科学研究領域は小論文と口述試験の評価によって選考を行う。臨床心理学研究領域では、専門知識、語学（英語）、及び口述試験の評価により選考を行う。
- (3) 外国人留学生入試（人間科学研究領域のみ実施）：外国人を対象としている。研究領域の専門知識、語学（日本語）、及び口述試験の評価により選考を行う。

人間科学研究科 人間科学専攻 博士後期課程

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本研究科博士後期課程のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した博士論文が専攻内規に則って審査され合格と判定された者は、以下に掲げる能力を身につけていると判断され、博士（人間科学）の学位が授与される。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力

- （1）人と社会に対する柔軟で幅広い視野と、主体的かつ総合的な判断力を身につけている。
- （2）自立して研究課題を設定し、研究活動を推進できる創造力及び自立力を身につけている。

2. 国際的感性とコミュニケーション能力

- （1）多様な社会の要請に応じて社会の価値創造に貢献し得る高度な専門職業人としての能力を身につけている。

3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能

- （1）人間科学または臨床心理学の分野に関する博士として必要な高度な専門知識を身につけている。
- （2）研究活動を通じた企画・運営・管理能力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本研究科博士後期課程では、それぞれの専門分野において、研究者として自立できる幅広い高度な専門的知識と研究手法・研究遂行能力、創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者等の育成を目的とするため、以下のカリキュラム・ポリシーを設定している。

1. 教育課程の編成・実施

- （1）「人間科学特殊研究（演習）」を必修とし、後期課程の全年次において独創的な優れた研究を自立して遂行し、成果を公表する能力と技術を陶冶し、博士論文の完成へと導く。
- （2）「文献研究」「企画研究」「課題研究」「実践研究」を各半期の演習と定めてこれを必修とし、段階的に高度な専門的研究の遂行を促し、研究及び教育を指導する能力と技術を実践的に体得することを目標とする。
- （3）研究課題に関する文献（英語を中心とする学術論文、外国語書物等）の講読により先行研究に学び、問題を明確化するため、「文献研究」を必修とする。
- （4）定めた研究課題に対する方法の選択、企画書作成等の実行、訓練を目的として、「企画研究」を必修とする。
- （5）企画に沿って実験及び調査等によってデータを収集し、解析する能力を身につけさせるため、「課題研究」を必修とする。
- （6）実践力を重視する観点から、他研究機関との研究交流及び研究課題との関連での現場視察、リサーチ、調査等の研究を目的として、「実践研究」を必修とする。
- （7）TA（ティーチング・アシスタント）に就くことで、教育者として教育能力を高める経験を積む機会を用意する。

2. 教育の方法と評価

- （1）研究指導は指導教授のもとでの演習を基本として行われ、専門分野の知識を深め、技能を修得するよう支援する。その上で、柔軟性のあるカリキュラムによって関連分野の複数の教員による多様な指導が受けられ、自主的に学問する能力を磨くことができる。
- （2）徹底した個別指導により、独創的な発想に立った研究と、その成果に基づく論文の完成へと導く。
- （3）計画・遂行・発表を含む博士論文研究の中間審査、及び本審査を介して、研究課題解決能力とプレゼンテーション・コミュニケーション能力の評価を行っている。これらの評価は、公正性と厳格性を保つため、複数の専門教員で実施する。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

1. 大学院教育によって培う能力

人間科学研究領域

- （1）人間を身体や心理、社会という観点から実証的に分析する能力、そうして得た知見を応用し現代社会に還元する能力を獲得する。そして、研究機関のみならず、教育機関・企業・行政における人間科学の専門家を育成する。

臨床心理学研究領域

- （1）高度な研究能力と臨床実践力を培い、臨床心理学における自立した研究者、及び心理臨床家の指導者を育成する。

2. 本専攻の求める入学者

人間科学研究領域

- (1) 人間及び人間社会に関する深い関心を有する人
- (2) 人間科学（心理、健康科学、地域社会学等）に関連する博士前期課程修了程度の高い学識を有する人
- (3) 社会の要請に応え、新たな価値を創造することに対して意欲を有する人

臨床心理学研究領域

- (1) 人間に関する深い関心と博士前期課程修了程度の学力、援助能力を有する人
- (2) 人間の福祉と臨床心理学への深い関心を有し、将来、それぞれの実践領域における指導者又は研究者を目指す学習を可能とする研究・実践能力と意欲を有している人

3. 博士前期課程までの能力に対する評価（選抜方法）

本研究科博士後期課程では、以下の3種類の入学試験を実施している。

- (1) 一般入試：修士の学位を有する者あるいは修士の学位を取得見込みの者を対象としている。修士論文、語学（英語）、及び口述試験の評価により選考を行う。
- (2) 社会人特別入試：一定の社会的経験を積んだ社会人を対象としている。修士論文及び口述試験の評価により選考を行う。
- (3) 外国人留学生入試（人間科学研究領域のみ実施）：外国人を対象としている。修士論文、語学（日本語）、及び口述試験の評価により選考を行う。

人間科学専攻 人間科学研究領域 博士前期課程

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本研究科博士前期課程のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した修士論文が専攻内規に則って審査され合格と判定された者は、人間科学専攻博士前期課程の学位授与の方針に掲げる能力に加え、下記の能力を身につけていると判断され、修士（人間科学）の学位が授与される。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力
人間科学の専門性に基づく分析力、技術力、応用力を身につけている。
2. 国際的感性とコミュニケーション能力
人間科学における研究能力又は専門的職業を担うための能力を身につけている。
3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能
人間科学の分野に関する修士として高度な専門知識を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本研究領域博士前期課程では、人間科学のそれぞれの研究分野において、自立して研究活動を行うに足る研究能力を修得させることを目標としている。その基盤となる豊かな学識を培う教育のうえに、自ら研究課題を設定し、研究活動を実施する等、学生の創造力や自立力を磨く教育を行うとともに、研究活動の企画や管理等の運営管理能力を高める教育を行うこととする。こうした教育目標のため、以下のカリキュラム・ポリシーを設定している。

1. 教育課程の編成・実施
 - (1) 社会の変化に対応し得る統合された知の基盤を与えるため、他の研究領域、他の専門分野の開講する講義科目を履修できるように柔軟なカリキュラムを設定する。
 - (2) 各専門分野における問題を的確に把握し解明する能力と技術を身につけさせるため、「人間科学特別研究（演習）」を必修とし、指導教授による指導を密にし、自主的な学びを促す。
 - (3) 人間科学研究領域においては「人間科学事例研究」を必修とし、修士論文の課題を設定し修士論文を制作する前段階として文献研究、現場調査、学会発表等の研究指導を行う。そして、理論的知識や能力を基礎として、実際にそれらを活用する能力と課題に対する柔軟な思考能力や深い洞察力に基づく主体的な行動力を身につけさせる。
 - (4) TA(ティーチング・アシスタント)に就くことで、教育者として教育能力を高める経験を積む機会を用意する。
2. 教育の方法と評価
 - (1) 研究指導は指導教授のもとでの演習を基本として行われ、専門分野の知識を深め、技能を修得するよう支援する。

その上で、柔軟性のあるカリキュラムによって関連分野の複数の教員による多様な指導が受けられ、自主的に学問する能力を磨くことができる。

- (2) 徹底した個別指導により、独創的な発想に立った研究と、その成果に基づく論文の完成へと導く。
- (3) 計画・遂行・発表を含む修士論文研究の中間審査、及び本審査を介して、研究課題解決能力とプレゼンテーション・コミュニケーション能力の評価を行う。これらの評価は、公正性と厳格性を保つため、複数の専門教員で実施する。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

1. 大学院教育によって培う能力

- (1) 人間を身体や心理、社会という観点から実証的に分析する能力、そうして得た知見を応用し現代社会に還元する能力を養成する。

2. 本領域の求める入学者

- (1) 人間及び人間社会に関する幅広い関心を有する人
- (2) 人間科学（心理学、健康科学、社会学等）に関連する基礎知識を学部卒業程度に備えた人
- (3) 福祉や他者支援に意欲を有する人

3. 大学までの能力に対する評価（選抜方法）

人間科学研究領域博士前期課程では、入学試験を通じて、人間科学に関連した基礎知識や語学力を備え、人間科学に関する深い関心を有する学生を受け入れる。

人間科学専攻 人間科学研究領域 博士後期課程

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本研究科博士後期課程のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した博士論文が専攻内規に則って審査され合格と判定された者は、人間科学専攻博士後期課程の学位授与の方針に掲げる能力に加え、以下に掲げる能力を身につけていると判断され、博士（人間科学）の学位が授与される。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力

人間科学の専門性に基づく高度な分析力、技術力、応用力を身につけている。

2. 国際的感性とコミュニケーション能力

人間科学における研究能力又は専門的職業を担うための卓越した能力を身につけている。

3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能

人間科学の分野に関する博士として高度な専門知識を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本研究領域博士後期課程では、人間科学のそれぞれの専門分野において、研究者として自立できる幅広い高度な専門的知識と研究手法・研究遂行能力、創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者等の育成を目的とするため、以下のカリキュラム・ポリシーを設定している。

1. 教育課程の編成・実施

- (1) 「人間科学特殊研究（演習）」を必修とし、後期課程の全年次において独創的な優れた研究を自立して遂行し、成果を公表する能力と技術を陶冶し、博士論文の完成へと導く。
- (2) 「文献研究」「企画研究」「課題研究」「実践研究」を各半期の演習と定めてこれを必修とし、段階的に高度な専門的研究の遂行を促し、研究及び教育を指導する能力と技術を実践的に体得することを目標とする。
- (3) 研究課題に関する文献（英語を中心とする学術論文、外国語書物等）の講読により先行研究に学び、問題を明確化するため、「文献研究」を必修とする。
- (4) 定めた研究課題に対する方法の選択、企画書作成等の実行、訓練を目的として、「企画研究」を必修とする。
- (5) 企画に沿って実験及び調査等によってデータを収集し、解析する能力を身につけさせるため、「課題研究」を必修とする。
- (6) 実践力を重視する観点から、他研究機関との研究交流及び研究課題との関連での現場視察、リサーチ、調査等の

研究を目的として、「実践研究」を必修とする。

(7) TA(ティーチング・アシスタント)に就くことで、教育者として教育能力を高める経験を積む機会を用意する。

2. 教育の方法と評価

(1) 研究指導は指導教授のもとでの演習を基本として行われ、専門分野の知識を深め、技能を修得するよう支援する。その上で、柔軟性のあるカリキュラムによって関連分野の複数の教員による多様な指導が受けられ、自主的に学問する能力を磨くことができる。

(2) 徹底した個別指導により、独創的な発想に立った研究と、その成果に基づく論文の完成へと導く。

(3) 計画・遂行・発表を含む博士論文研究の中間審査、及び本審査を介して、研究課題解決能力とプレゼンテーション・コミュニケーション能力の評価を行う。これらの評価は、公正性と厳格性を保つため、複数の専門教員で実施する。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

1. 大学院教育によって培う能力

人間を身体や心理、社会という観点から計測し、実証的に分析する能力、そうして得た知見を応用し現代社会に還元する能力を獲得する。そして、研究機関のみならず、教育機関・企業・行政における人間科学の専門家を育成する。

2. 本領域の求める入学者

(1) 人間及び人間社会に関する深い関心を有する人

(2) 人間科学（実験心理学、スポーツ健康科学、地域社会学）に関連する博士前期課程修了程度の高い学識を有する人

(3) 社会の要請に応え、新たな価値を創造することに対して意欲を有する人

3. 博士前期課程までの能力に対する評価（選抜方法）

人間科学研究領域博士後期課程の各分野では、入学試験を通じて、人間科学に対する深い関心を有し、人間科学に関する専門的思考・学識と高い技術を有する学生を受け入れる。

人間科学専攻 臨床心理学研究領域 博士前期課程

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本研究科博士前期課程のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した修士論文が専攻内規に則って審査され合格と判定された者は、人間科学専攻博士前期課程の学位授与の方針に掲げる能力に加え、臨床心理学分野に求められる下記の能力を身につけていると判断され、修士（人間科学）の学位が授与される。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力

(1) 柔軟で主体的な判断力を身につけている。

(2) 臨床心理士としての可能性、自覚と見識、その職務遂行のための理論と実践力を身につけている。

2. 国際的感性とコミュニケーション能力

(1) 人を深く理解し、実践的に課題解決策を見いだすことのできる専門職業人としての能力を身につけている。

3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能

(1) 臨床心理学分野に関する専門知識を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本研究領域博士前期課程では、臨床心理学分野に関する専門知識に基づく主体的な判断力を持ち、人を理解し、実践的課題解決ができる専門職業人の能力を育成し、かつ臨床心理士受験資格及び公認心理師受験資格の取得のために、以下のようなカリキュラム・ポリシーを設定している。

1. 教育課程の編成・実施

(1) 「人間科学特別研究（演習）」を必修とし、指導教授による指導を密にし、修士論文の作成に向けて、課題の設定、文献研究、現場調査、学会発表等の研究指導を行っている。

(2) 臨床心理学分野に関する基本的理解と幅広い視野を獲得できるよう、臨床基本科目群、選択科目群に分けて、豊

富な講義科目を設けている。

- (3) 臨床心理学研究領域において、臨床心理士、公認心理師の受験を目指す者は臨床実習科目群から定められた科目を履修し、修士論文の課題を設定し修士論文を制作する前段階として文献研究、現場調査、学会発表等の研究指導を行うことにより理論的知識や能力を基礎として、実際にそれらを応用する能力と課題に対する柔軟な思考能力や深い洞察力に基づく主体的な行動力を身につけさせるとともに、実践的教育に力を入れる。
- (4) TA(ティーチング・アシスタント)に就くことで、教育者として教育能力を高める経験を積む機会を用意している。

2. 教育の方法と評価

- (1) 研究指導は指導教授のもとでの演習を基本として行われ、専門分野の知識を深め、技能を修得するよう支援する。その上で、柔軟性のあるカリキュラムによって関連分野の複数の教員による多様な指導が受けられ、自主的に学問する能力を磨くことができる。
- (2) 徹底した個別指導により、独創的な発想に立った研究と、その成果に基づく論文の完成へと導く。
- (3) 計画・遂行・発表を含む修士論文研究の中間審査、及び本審査を介して、研究課題解決能力とプレゼンテーション・コミュニケーション能力の評価を行っている。これらの評価は、公正性と厳格性を保つため、複数の専門教員で実施するようにしている。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

1. 大学院教育によって培う能力

研究から得られた科学的知見を現代社会に還元する能力と、それに根ざした臨床心理の実務能力を徹底したスーパービジョン・システムと少人数教育を通して養成する。

2. 本領域の求める入学者

- (1) 人間に関する深い関心を有する人
- (2) 臨床心理学及び臨床心理技術の習得を目指す学習を可能とする学部卒業同等の臨床心理学、心理学、関連科目の基礎知識を備えた人
- (3) 臨床心理士、公認心理師などの専門職として個人の福祉と社会の発展への貢献に意欲を有する人

3. 大学までの能力に対する評価（選抜方法）

臨床心理学研究領域博士前期課程では、入学試験を通じて、臨床心理学の専門・基礎知識や語学力を備え、臨床心理士、公認心理師などの資格取得への意欲を有する学生を受け入れる。

人間科学専攻 臨床心理学研究領域 博士後期課程

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本研究科博士後期課程のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した博士論文が専攻内規に則って審査され合格と判定された者は、人間科学専攻博士後期課程の学位授与の方針に掲げる能力に加え、臨床心理学分野に求められる下記の能力を身につけていると判断され、博士（人間科学）の学位が授与される。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力

- (1) 柔軟で主体的な判断力を身につけている。
- (2) 臨床心理士としての実践力、及び指導者又は自立した研究者として社会貢献できるための研究能力を身につけている。

2. 国際的感性とコミュニケーション能力

- (1) 人を深く理解し、実践的に課題解決策を見いだすことのできる高度専門職業人としての能力を身につけている。

3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能

- (1) 人間科学または臨床心理学分野に関する博士として高度な専門知識を身につけている。
- (2) 研究活動を通じた企画・運営・管理能力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本研究領域博士後期課程では、臨床心理学分野に関する専門知識に基づく主体的な判断力を持ち、人を理解し、実践的課題解決ができる高度な専門職業人の能力を育成し、それぞれの実践領域における指導者又は研究者を目指すために、以下のようなカリキュラム・ポリシーを設定している。

1. 教育課程の編成・実施

- (1) 「人間科学特殊研究（演習）」を必修とし、後期課程の全年次において独創的な優れた研究を自立して遂行し、成果を公表する能力と技術を陶冶し、博士論文の完成へと導く。
- (2) 「文献研究」「企画研究」「課題研究」「実践研究」を各半期の演習と定めてこれを必修とし、段階的に高度な専門的研究の遂行を促し、研究及び教育を指導する能力と技術を実践的に体得することを目標とする。
- (3) 研究課題に関する文献（英語を中心とする学術論文、外国語書物等）の講読により先行研究に学び、問題を明確化するため、「文献研究」を必修とする。
- (4) 定めた研究課題に対する方法の選択、企画書作成等の実行、訓練を目的として、「企画研究」を必修とする。
- (5) 企画に沿って実験及び調査等によってデータを収集し、解析する能力を身につけさせるため、「課題研究」を必修とする。
- (6) 実践力を重視する観点から、他研究機関との研究交流及び研究課題との関連での現場視察、リサーチ、調査等の研究を目的として、「実践研究」を必修とする。
- (7) TA(ティーチング・アシスタント)に就くことで、教育者として教育能力を高める経験を積む機会を用意する。

2. 教育の方法と評価

- (1) 研究指導は指導教授のもとでの演習を基本として行われ、専門分野の知識を深め、技能を修得するよう支援する。その上で、柔軟性のあるカリキュラムによって関連分野の複数の教員による多様な指導が受けられ、自主的に学問する能力を磨くことができる。
- (2) 徹底した個別指導により、独創的な発想に立った研究と、その成果に基づく論文の完成へと導く。
- (3) 計画・遂行・発表を含む博士論文研究の中間審査、及び本審査を介して、研究課題解決能力とプレゼンテーション・コミュニケーション能力の評価を行っている。これらの評価は、公正性と厳格性を保つため、複数の専門教員で実施するようにしている。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

1. 大学院教育によって培う能力

高度な研究能力と臨床実践力を培い、臨床心理学における自立した研究者、及び心理臨床家の指導者を育成する。

2. 本領域の求める入学者

- (1) 人間に関する深い関心と博士前期課程修了程度の学力、援助能力を有する人
- (2) 人間の福祉と臨床心理学への深い関心を有し、将来、それぞれの実践領域における指導者又は研究者を目指す学習を可能とする研究・実践能力と意欲を有している人

3. 博士前期課程までの能力に対する評価（選抜方法）

臨床心理学研究領域博士後期課程では、入学試験を通じて、人間に対する深い関心を有し、臨床心理学的思考・研究能力・援助能力を有する学生を受け入れる。

履修案内

本研究科は人間科学専攻1専攻のもと、人間科学研究領域と臨床心理学研究領域の2領域から構成されています。臨床心理学研究領域は臨床心理学分野の1分野からなり、人間科学研究領域は応用実験心理学分野、スポーツ健康科学分野、地域社会学分野の3分野を含みます。

博士前期課程においては、学部の学修で身につけた専門的な知識や能力を基礎として、実際にそれらを応用する力を磨き、人間理解に対する柔軟な思考能力や深い洞察力に基づく主体的な行動を身につけることができるよう、カリキュラムが編成されています。

両研究領域に共通の演習科目として人間科学特別研究があります。人間科学特別研究は、入学時より2年間を通して一貫した演習形式の指導体制により、自己の研究課題の設定からはじめ、論文指導を繰り返しながら、修士論文の完成へとつなげていくことを目的とした必修科目です。

また、人間科学研究領域に共通の演習科目として「人間科学事例研究」を必修とし、2年次に配置しています。講義科目で修得した知識の有効性を具体的な事例を取り上げて考察することにより、問題発見や問題解決の方法を学ぶとともに、具体的な実践事例の分析や研究による総合的な課題学修を目的としています。

その上で、人間科学に関する各分野の基礎理論と実践理論を幅広く学ぶと共に、専門領域に関する知識を深め、問題解決の方法を学び、各自の研究テーマへと関連づけていく科目として以下の講義科目を配置しています。

応用実験心理学分野：応用心理学特論Ⅰ，応用心理学特論Ⅱ，応用心理学特論Ⅲ，応用心理学特論Ⅳ，
心理学実験法特論，知覚情報心理学特論，知識構造特論

スポーツ健康科学分野：スポーツ科学特論Ⅰ，スポーツ科学特論Ⅱ，スポーツ科学特論Ⅲ，スポーツ科学特論Ⅳ
コーチング特論，生涯スポーツ健康特論，生体機能特論，バイオメカニクス特論，
運動生化学特論

地域社会学分野：地域社会学特論Ⅰ，地域社会学特論Ⅱ，地域社会学特論Ⅲ，地域社会学特論Ⅳ
地域社会学特論，都市地理学特論，環境科学特論，社会教育特論，教育社会学特論
人口地理学特論

臨床心理学研究領域においては臨床心理学の科学的探求とその知見の社会還元を追求するだけでなく、臨床心理士（公益社団法人日本臨床心理士資格認定協会）、公認心理師（厚生労働省・文部科学省）の資格取得も目的として、以下の講義、演習、実習による科目を配置しています。

【臨床心理士取得を目指す科目】

臨床基礎科目群：臨床心理学特論Ⅰ・Ⅱ，臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践），
臨床心理面接特論Ⅱ，臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践），
臨床心理査定演習Ⅱ

臨床心理実習科目群：臨床心理基礎実習Ⅰ・Ⅱ，臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ），臨床心理実習Ⅱ，
臨床心理相談実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（心理実践実習A・B・C・D）

その上で、さらに心理臨床に関する各領域の基礎理論と実践理論を幅広く学び、専門領域に関する知識を深め、問題解決の方法を学び、各自の研究テーマへと関連づけていく科目として以下のA群からE群の科目を配置しています。

A群：臨床心理学研究法特論，心理統計法特論

B群：人格心理学特論，発達心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）

C群：人間関係学特論，家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）
犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）

D群：精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開），
障害者心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）

E群：投影法特論，遊戯療法特論

【公認心理師取得を目指す科目】

臨床基礎科目群： 臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）、
臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）
臨床心理実習科目群： 臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ）、
臨床心理相談実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（心理実践実習A・B・C・D）

B群： 発達心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）

C群： 家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）、
犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）

D群： 精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）
障害者心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）

飽畷： 心の健康教育に関する理論と実践，産業・労働分野に関する理論と支援の展開

各研究領域において開講する講義課程は、一部の制限を除き、専攻する領域や分野を越えて、自由に履修することができます。ただし、「臨床基本科目群」、「臨床実習科目群」及び「E群」の授業科目は、臨床心理学研究領域の学生のみ履修することができます。

博士後期課程においては、博士前期課程との接続を重視しつつ、それぞれの専門領域の研究者又は実践の指導者として自立できるよう、一貫した体系的な教育課程を編成しています。

研究指導については、人間科学特殊研究を必修科目として配置することにより、入学時より3年間を通して一貫した研究指導を行い、学位論文の完成へと導きます。

そのほか、以下の演習科目を必修科目として、段階を踏んで学問を深めることができるよう配置しています。

第一段階 人間科学文献研究：高度な学術研究に豊富に接することにより、基盤となる豊かな知的学識を培う

第二段階 人間科学企画研究：研究活動における企画力や公表力、自立力などを磨く

第三段階 人間科学課題研究：自ら研究課題を設定し、研究活動を実施する

第四段階 人間科学実践研究：多様な研究活動の場を通じて研鑽を積む

学修の流れ

博士前期課程 学修の流れ

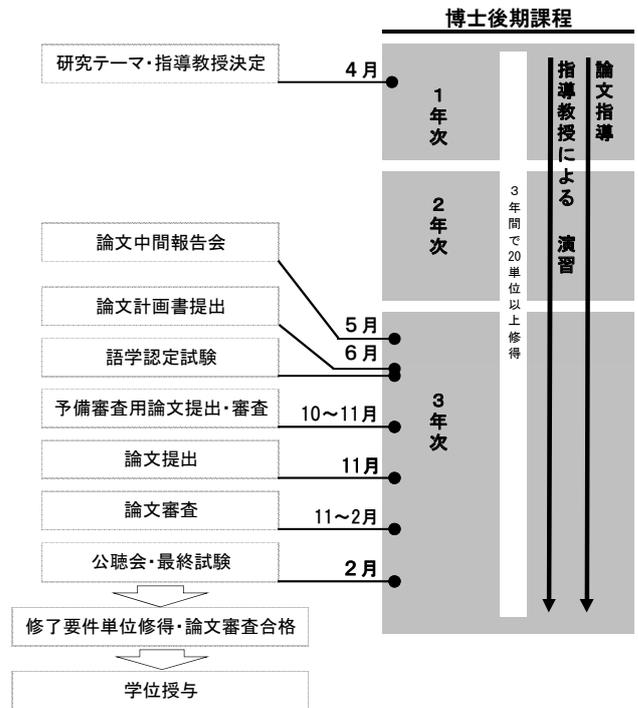
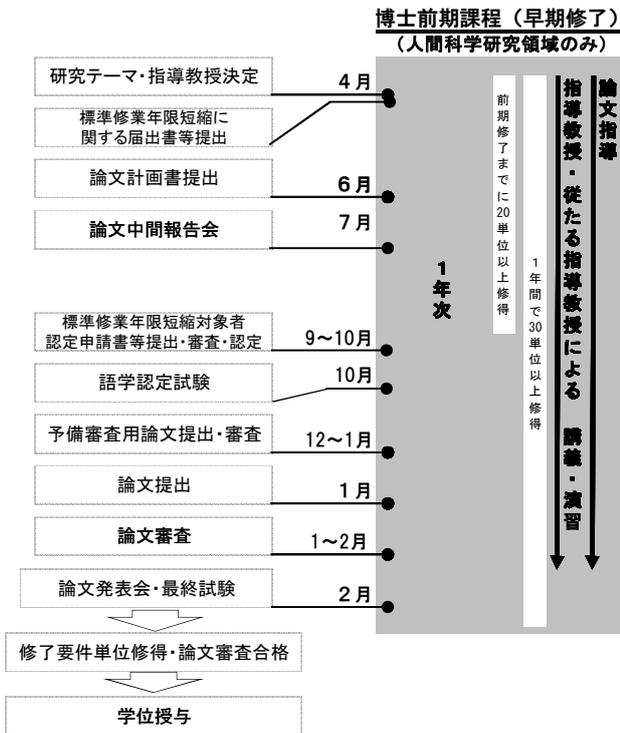
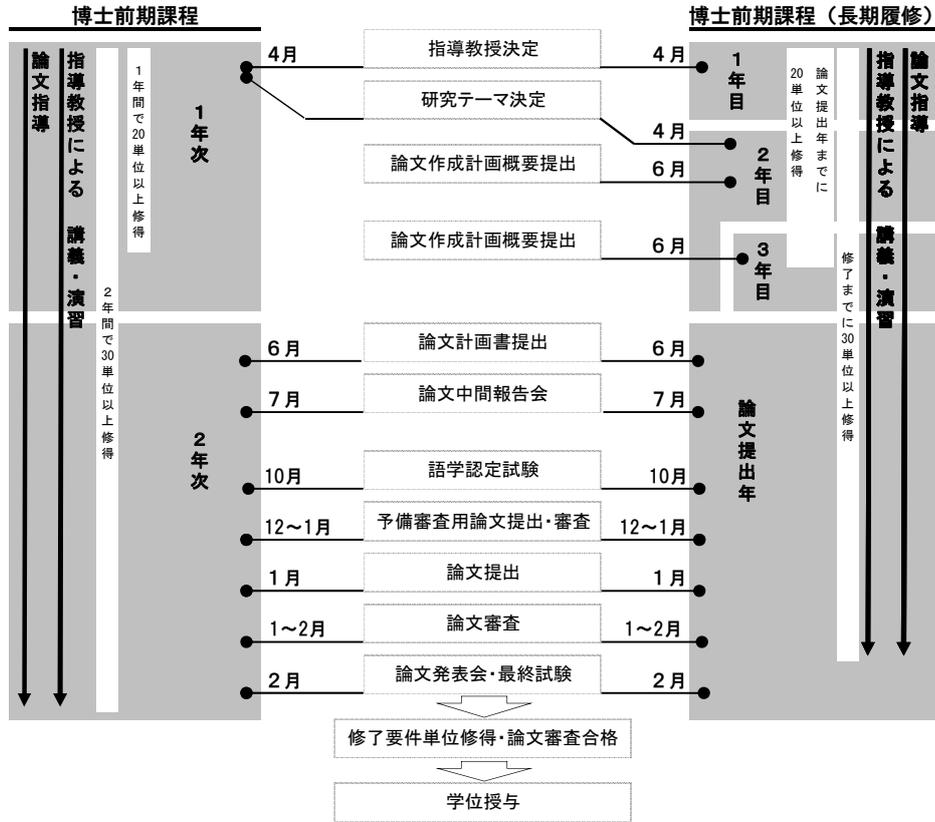
学 年	月	事 項	備 考	
1 年次	4 月	オリエンテーション		
		研究テーマ・指導教授の決定		
		履修登録	特別研究（4 単位）（指導教授） その他の科目（16 単位以上）	・指導教授の特別研究を含めて 20 単位以上を修得すること（論文提出要件）
2 年次	4 月	履修登録	特別研究（4 単位）（指導教授） その他の科目	・2 年次修了までに 30 単位以上の修得が必要（修了要件） ・修了見込証明書発行基準：2 年次に在学し 20 単位以上を修得していること
		6 月	修士論文計画書提出	論文タイトルや概要を決定する
		7 月	修士論文中間報告会	修士論文予備審査員（主査を含む）の決定
	～10月	語学認定試験	指導教授の指示による	
	12 月	予備審査用修士論文提出		
	12～1 月	修士論文予備審査		
	1 月		修士論文審査員（主査・副査）の決定	
	1 月	修士論文提出	作成要領参照	
	1月～2 月	修士論文本審査		
	2 月	修士論文発表会・最終試験	主査・副査による口述試験	
	3 月	学位授与式		

早期修了者・長期履修者は、次ページ「学修フローチャート」を参照してください。

博士後期課程 学修の流れ

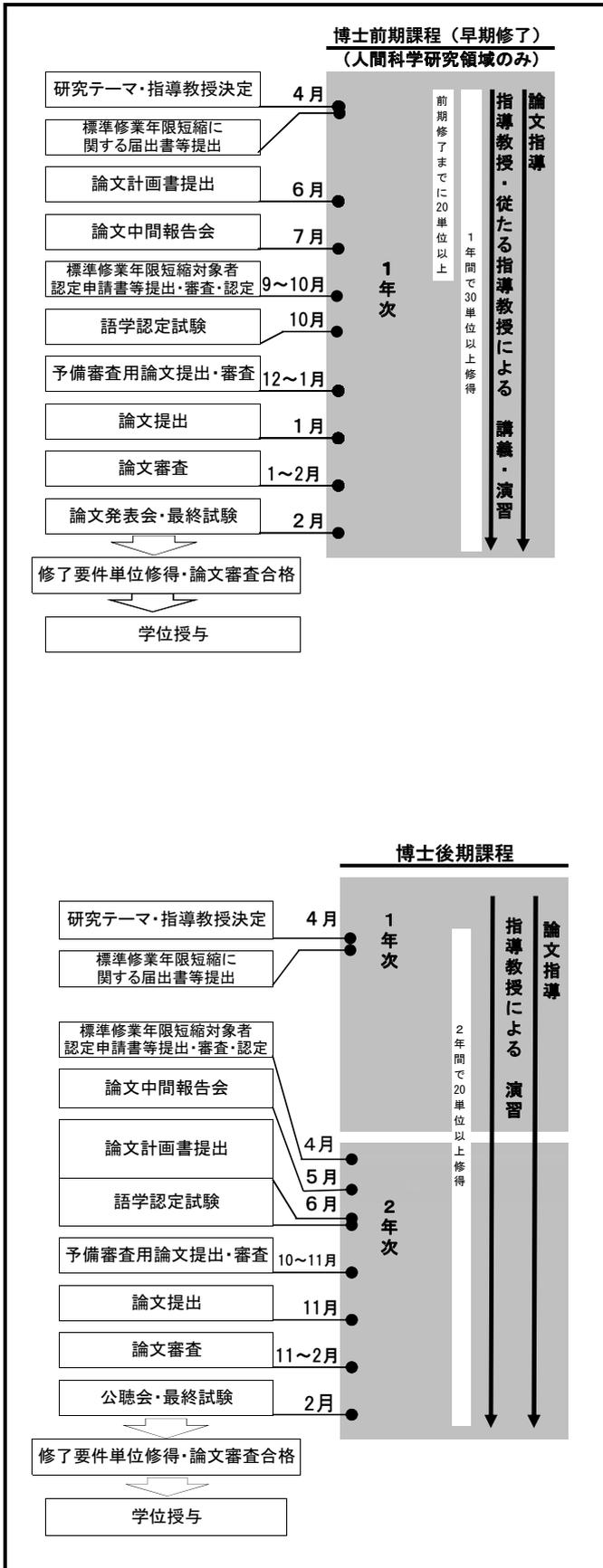
学 年	月	事 項	備 考	
1 年次	4 月	オリエンテーション		
		研究テーマ・指導教授の決定		
		履修登録	特殊研究（4 単位）（指導教授） その他の演習科目（指導教授）	
2 年次	4 月	履修登録	特殊研究（4 単位）（指導教授） その他の演習科目（指導教授）	
		履修登録	特殊研究（4 単位）（指導教授）	・3 年間で 20 単位以上修得する（指導教授の特殊研究 12 単位・指導教授の演習科目 8 単位を含む）（修了要件）
3 年次	5 月	博士論文中間報告会	博士論文予備審査員（主査を含む）の決定	
	6 月	博士論文計画書提出	論文タイトルや概要を決定する	
	～6月	語学認定試験	指導教授の指示による	
	10 月	予備審査用博士論文提出		
	10月～11 月	博士論文予備審査		
	11 月		博士論文審査員（主査・副査）の決定	
	11 月	博士論文提出	作成要領参照	
	11月～2 月	博士論文本審査		
	2 月	博士論文公聴会・最終試験	主査・副査による口述試験	
	3 月	学位授与式		

人間科学研究科 学修フローチャート

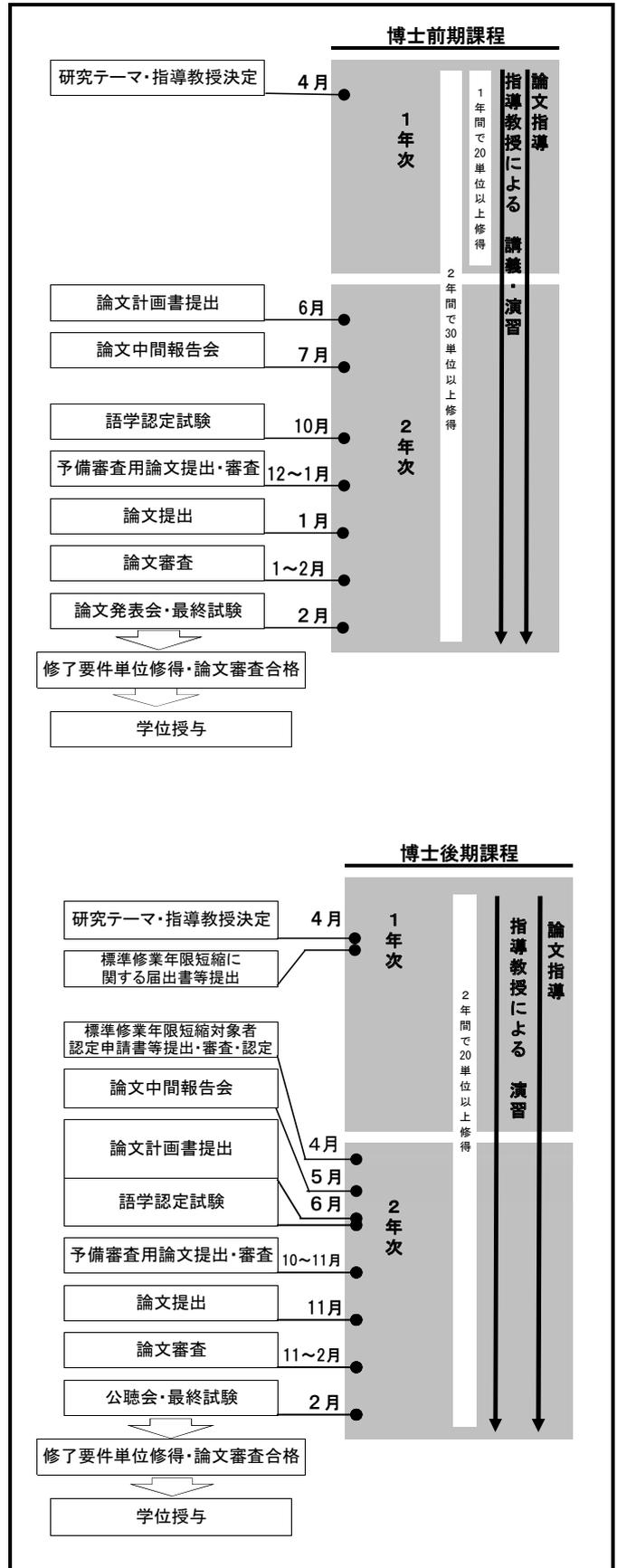


人間科学研究科（早期修了）学修フローチャート

前期課程を1年で修了する場合（人間科学研究領域のみ）



前期課程を2年で修了する場合



成績評価について

1 科目試験について

秀	90点以上	所期の目標を十分に達成し、特に秀でた成績を示している。	合格
優	80点以上	所期の目標を十分に達成し、優れた成績を示している。	合格
良	70点以上	不十分な点があるが、所期の目標をほぼ達成している。	合格
可	60点以上	所期の目標の最低限は満たしている。	合格
不可	60点未満	いくつかの重要な点において所期の目標を達成していない。	不合格

2 論文試験について

修士論文評価基準

- ①当該研究領域における修士としての必要な知識を修得し、必要に応じて当該研究領域における問題を的確に把握し、解明する能力を身に付けているか。
- ②申請された学位に対して研究テーマの設定が妥当なものであるか、論文作成に当たって、そのテーマを踏まえた明確な問題意識を有しているか。
- ③論文の記述(本文、図、表、引用、文献リストなど)が適切かつ十分であり、明瞭にして一貫した論理構成を備え、明確かつ妥当な結論を得ているか。
- ④設定したテーマの研究に際して、適切な研究方法(調査、実験、論証など)が採用され、論文ではそれに則った具体的かつ的確な分析或いは考察がなされているか。
- ⑤外国語文献読解や外国における調査を踏まえた論文については、外国語の解釈、運用が的確であるか。
- ⑥当該研究領域において、理論的あるいは実証的な見地から、一定レベル以上の水準に達しているか。

博士論文評価基準

- ①研究者として自立して研究活動を行うに足る、又は高度の専門性が求められる社会の各分野において活躍しうる高度の研究能力と豊かな学識が身に付いているか。
- ②適切なテーマ設定が行われ、明確な問題意識に基づき、的確な方法によって研究がなされているか。
- ③学術論文として明確かつ緻密な論理性を備えるとともに、学術論文にふさわしい記述方法が選択され、かつ明瞭にして妥当な結論が得られているか。
- ④当該研究領域において、論文は一定レベル以上の水準に達しているか。
- ⑤当該研究分野において何らかの貢献をなしたか、又は新たな知見を付け加えることができたか。
- ⑥当該研究領域において論文は独創的なレベルに到達しているか。

早期修了の「優れた業績」基準について

博士前期課程(人間科学研究領域のみ)

1. 「標準修業年限短縮対象者認定申請書」提出時まで、関連領域における査読付学術論文誌(紀要・技術報告等は除く)に第1著者として論文が1編以上受理されていること。

博士後期課程

1. 「標準修業年限短縮対象者認定申請書」提出時まで、関連領域における査読付学術論文誌(紀要・技術報告等は除く)に第1著者として論文が4編以上受理されていること。

教育課程表

2020年度 人間科学研究科人間科学専攻博士前期課程 教育課程表(2020年度入学者から適用)

	授業科目	単位数			開講学期		担任教員	備考
		講義	演習	実習	前学期	後学期		
臨床基本科目群	臨床心理学特論Ⅰ	2			○		准教授 博士(心理学) 麻生典子	
	臨床心理学特論Ⅱ	2				○	教授 博士(人間科学) 瀬戸正弘	
	臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)	2				○	准教授 博士(人間科学) 山蔦圭輔	
	臨床心理面接特論Ⅱ	2				○	教授 杉山崇	
	臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)		2			○	助教 森田麻登	
	臨床心理査定演習Ⅱ		2			○	教授 杉山崇 准教授 博士(心理学) 麻生典子	複数担当
臨床心理学研究領域	臨床心理基礎実習Ⅰ			1	○		教授 杉山崇 教授 加藤美智子	複数担当
				1	○		教授 博士(人間科学) 瀬戸正弘 准教授 博士(心理学) 麻生典子 准教授 櫻小路岳文	複数担当
	臨床心理基礎実習Ⅱ			1	○		教授 博士(人間科学) 瀬戸正弘 教授 加藤美智子 准教授 博士(心理学) 麻生典子 准教授 櫻小路岳文	複数担当
				1	○			休講
	臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習Ⅱ)			1	○			休講
	臨床心理実習Ⅱ			1	○			休講
	心理実践実習Ⅰ			1	○		教授 博士(人間科学) 杉山崇 教授 瀬戸正弘 准教授 博士(心理学) 麻生典子 准教授 博士(人間科学) 山蔦圭輔	複数担当
				1	○		教授 松本桂樹 助教 森田麻登	
	心理実践実習Ⅲ			1	○			休講
	臨床心理相談実習科目群	臨床心理相談実習Ⅰ (心理実践実習A)			1	○		講師 小野田直子 講師 黒澤礼子 講師 西川昌弘 講師 野村真睦 講師 橋本優 講師 森口修三
				1	○		講師 小野田直子 講師 黒澤礼子 講師 西川昌弘 講師 野村真睦 講師 橋本優 講師 森口修三	複数担当
臨床心理相談実習Ⅱ (心理実践実習B)				1	○			休講
臨床心理相談実習Ⅲ (心理実践実習C)				1	○			休講
臨床心理相談実習Ⅳ (心理実践実習D)			1	○			休講	
臨床心理学研究領域	A群	臨床心理学研究法特論	2			○	講師 末武康弘	
		心理統計法特論	2			○	講師 高史明	
	B群	人格心理学特論	2			○	講師 水野康弘	
		発達心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)	2			○	教授 古屋喜美代	
	C群	人間関係学特論	2			○	講師 吉村麻奈美	
		家族心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	2			○	講師 村尾泰弘	
		犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	2			○	講師 越智啓太	
	D群	精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	2			○	准教授 櫻小路岳文	
		障害者心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)	2			○	講師 新居みちる	
	E群	投影法特論	2			○	講師 小野田直子	
遊戯療法特論		2			○	講師 橋本優		
自由選択	心の健康教育に関する理論と実践	2			○	講師 生田倫子		
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	2			○	教授 松本桂樹		

	授業科目	単位数			開講学期		担 任 教 員 (2019年度参考)	備 考
		講義	演習	実習	前学期	後学期		
人間科学研究領域	基本科目	応用心理学特論Ⅰ	2			○	講師 博士(文学) 伊藤博晃	休講
		応用心理学特論Ⅱ	2			○	講師 中野泰志	
		応用心理学特論Ⅲ	2			○	講師 博士(心理学) 五十嵐由夏	
		応用心理学特論Ⅳ	2			○	講師 博士(医学) 三橋俊文	
		スポーツ科学特論Ⅰ	2			○	講師 仲澤真賢	
		スポーツ科学特論Ⅱ	2			○	講師 博士(教育学) 渋谷賢次	
		スポーツ科学特論Ⅲ	2			○	准教授 博士(医学) 石井哲次	
		スポーツ科学特論Ⅳ	2			○		
		地域社会学特論Ⅰ	2			○	教授 大西勝也	
		地域社会学特論Ⅱ	2			○	講師 博士(国際関係論) 芝井清久	
	地域社会学特論Ⅲ	2			○	教授 博士(人間科学) 笠間千浪		
	地域社会学特論Ⅳ	2			○	准教授 博士(文学) 川嶋伸佳		
	発展科目	心理学実験法特論	2			○	准教授 博士(学術) 前原吾朗	
		知覚情報心理学特論	2			○	教授 博士(工学) 吉澤達也	
		知識構造特論	2			○	准教授 博士(文学) 松永理恵	
		生涯スポーツ健康特論	2			○	教授 博士(学術) 渡部かなえ	
		コーチング特論	2			○	教授 大後栄治	
		生体機能特論	2			○	教授 博士(人間科学) 衣笠竜太	
		バイオメカニクス特論	2			○	准教授 博士(学術) 笹川俊	
		運動生化学特論	2			○	准教授 博士(学術) 北岡祐	
教育社会学特論		2			○	教授 間山広朗		
人口地理学特論		2			○	教授 平井誠		
都市地理学特論	2			○	准教授 博士(理学) 小泉諒			
環境科学特論	2			○	教授 博士(工学) 松本安生			
社会教育特論	2			○	教授 博士(学術) 齊藤ゆか			
地域社会学特論	2			○	准教授 博士(農学) 芦田裕介			
演習・研究	人間科学事例研究Ⅰ		2		○	教授 博士(人間科学) 衣笠竜太	休講	
	人間科学事例研究Ⅱ		2		○	教授 博士(学術) 齊藤ゆか		
	人間科学特別研究			4		○		教授 博士(理学) 平井誠
						○		教授 博士(工学) 松本安生
						○		教授 間山広朗
						○		教授 博士(工学) 吉澤達也
						○		教授 博士(学術) 渡部かなえ
						○		准教授 博士(農学) 芦田裕介
						○		准教授 博士(学術) 北岡祐
						○		准教授 博士(理学) 小泉諒
						○		准教授 博士(学術) 笹川俊
						○		准教授 博士(学術) 前原吾朗
						○		准教授 博士(文学) 松永理恵
						○		教授 博士(人間科学) 衣笠竜太
						○		教授 博士(学術) 齊藤ゆか
						○		教授 杉山崇
						○		教授 博士(人間科学) 瀬戸正弘
						○		教授 大後栄治
						○		教授 博士(理学) 平井誠
						○		教授 博士(工学) 松本安生
				○	教授 間山広朗			
				○	教授 博士(工学) 吉澤達也			
				○	教授 博士(学術) 渡部かなえ			
				○	准教授 博士(農学) 芦田裕介			
				○	准教授 博士(心理学) 麻生典子			
				○	准教授 博士(学術) 北岡祐			
				○	准教授 博士(理学) 小泉諒			
				○	准教授 博士(学術) 笹川俊			
				○	准教授 博士(学術) 前原吾朗			
				○	准教授 博士(文学) 松永理恵			
				○	准教授 博士(人間科学) 山蔭圭輔			

指導教授

1. 学生は、入学試験の区分により決定された研究領域・研究分野に所属し、指導を受ける担当教員（以下、指導教授という）から研究全般の指導を受けるものとする。
2. 指導教授は原則としてこれを変更することはできない。やむを得ない事情により変更する場合は、研究科委員会の承認を必要とする。
3. 指導教授が学生の研究上必要と認める場合には、従たる指導教授の指導を受けることができる。
4. 従たる指導教授はこれを年度ごとに変更することができる。
5. 従たる指導教授については、研究科委員会に届け出るものとする。

履修方法

1. 指導教授の指導によって、合計30単位以上を修得すること。学生の授業科目履修は、指導教授の指導および助言を得て行うものとする。
2. 指導教授による演習科目「人間科学特別研究」はこれを必修とし、2年間にわたり8単位を修得しなければならない。なお、指導教授が学生の研究上必要と認める場合には、従たる指導教授による演習科目「人間科学特別研究」を8単位まで履修することができ、修了要件単位に4単位まで算入することができる。
3. 修業年限の短縮が認められた者については、前項にかかわらず、演習科目「人間科学特別研究」を、指導教授の開講する科目4単位及び従たる指導教授の開講する科目4単位を修得すること。
4. 長期履修を認められた者（修業年限が3年または4年）については、指導教授による演習科目「人間科学特別研究」を8単位修得すること。なお、指導教授による演習科目「人間科学特別研究」、従たる指導教授による演習科目「人間科学特別研究」を長期履修終了時まで毎年度履修することができる。ただし、修了要件単位に算入できる修得単位は、指導教授による演習科目「人間科学特別研究」8単位、従たる指導教授による演習科目「人間科学特別研究」4単位を上限とする。
5. 指導教授が学生の研究上必要と認める場合には、他の研究科または学部の課程による単位を8単位まで履修することができる。
また、他大学大学院（神奈川県内の大学院間の単位互換協定校）の授業科目を10単位まで、「人間科学研究領域」の学生のみ履修することができる。
6. 上記5の修得単位は、8単位を上限として修了要件単位に算入することができる。
ただし、修業年限の短縮が認められた者については、学部の課程による単位を修了要件単位に算入することができない。
7. 「人間科学研究領域」の学生については、基本科目6単位及び主たる指導教授の発展科目2単位を必修とする。
また、指導教授による演習科目「人間科学事例研究ⅠまたはⅡ」を必修とし、2単位を修得しなければならない。
なお、指導教授が学生の研究上必要と認める場合には、従たる指導教授による演習科目「人間科学事例研究ⅠまたはⅡ」を4単位まで履修することができ、修了要件単位に2単位まで算入することができる。
8. 「臨床基本科目群」、「臨床実習科目群」及び「E群」の授業科目は、「臨床心理学研究領域」の学生のみ履修することができる。
9. 原則として「臨床実習科目群」の「臨床心理基礎実習Ⅰ・Ⅱ」及び「臨床心理相談実習Ⅰ（心理実践実習A）・Ⅱ（心理実践実習B）」は1年次に、「臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ）・Ⅱ」及び「臨床心理相談実習Ⅲ（心理実践実習C）・Ⅳ（心理実践実習D）」は2年次に履修することとする。
10. 「臨床心理学研究領域」の学生で、「臨床心理士」の受験資格を取得しようとする者は、「人間科学特別研究」（2年間にわたり8単位を修得）のほかに、「臨床基本科目群」6科目12単位、「臨床実習科目群」8科目8単位に加え、A～E群から、それぞれ1科目、計10単位以上を修得すること。
11. 「臨床心理学研究領域」の学生で、「公認心理師」の受験資格を取得しようとする者は、文部科学省令・厚生労働省令で定めている所定の科目すべてを履修すること。

論文提出要件

1. 修士論文の審査を申請し得る者は、博士前期課程2年次以上（修業年限の短縮が認められた者については博士前期課程1年次以上）に在学し、所定の授業科目について20単位以上を修得し、かつ、本研究科の指定する方法により外国語の学力に関する認定及び予備審査に合格した者に限る。

修了要件

1. 博士前期課程の修了要件は、本研究科に2年以上（修業年限の短縮が認められた者については1年以上）在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。

2020年度 人間科学研究科人間科学専攻博士前期課程 教育課程表 (2017年度入学者から2019年度入学者に適用)

	授業科目	単位数			開講学期		担任教員	備考
		講義	演習	実習	前学期	後学期		
臨床心理学研究領域	臨床基本科目群	臨床心理学特論 I	2			○	准教授 博士(心理学) 麻生典子	複数担当
		臨床心理学特論 II	2			○	教授 博士(人間科学) 瀬戸正弘	
		臨床心理面接特論 I	2			○	准教授 博士(人間科学) 山蔦圭輔	
		臨床心理面接特論 II	2			○	教授 杉山崇	
		臨床心理査定演習 I		2		○	助教 森田麻登	
		臨床心理査定演習 II		2		○	教授 杉山崇	
	臨床実習科目群	臨床心理基礎実習 I			1	○	准教授 博士(心理学) 麻生典子	複数担当
							教授 杉山崇	
							教授 加藤美智子	
		臨床心理基礎実習 II			1	○	准教授 博士(人間科学) 瀬戸正弘	複数担当
							教授 加藤美智子	
							准教授 博士(心理学) 麻生典子	
		臨床心理実習 I			1	○	准教授 櫻小路岳文	複数担当
							教授 博士(人間科学) 瀬戸正弘	
							教授 加藤美智子	
		臨床心理実習 II			1	○	教授 博士(心理学) 麻生典子	複数担当
							准教授 博士(人間科学) 山蔦圭輔	
					教授 松本桂樹			
					助教 森田麻登			
					教授 博士(人間科学) 瀬戸正弘			
臨床心理相談実習 I			1	○	教授 加藤美智子	複数担当		
					教授 杉山崇			
					准教授 博士(心理学) 麻生典子			
					准教授 博士(人間科学) 山蔦圭輔			
臨床心理相談実習 II			1	○	教授 松本桂樹	複数担当		
					助教 森田麻登			
					教授 博士(人間科学) 瀬戸正弘			
					教授 加藤美智子			
臨床心理相談実習 III			1	○	教授 杉山崇	複数担当		
					准教授 博士(心理学) 麻生典子			
					准教授 博士(人間科学) 山蔦圭輔			
					教授 松本桂樹			
臨床心理相談実習 IV			1	○	准教授 櫻小路岳文	複数担当		
					助教 森田麻登			
					講師 小野田直子			
					講師 黒澤礼子			
臨床心理学研究領域	A群	臨床心理学研究法特論	2			○	講師 末武康弘	
		心理統計法特論	2			○	講師 高史明	
	B群	人格心理学特論	2			○	講師 水野康弘	
		発達心理学特論	2			○	教授 古屋喜美代	
	C群	人間関係学特論	2			○	講師 吉村麻奈美	
		家族心理学特論	2			○	講師 村尾泰弘	
	D群	精神医学特論	2			○	准教授 櫻小路岳文	
		障害者心理学特論	2			○	講師 新居みちる	
	E群	投影法特論	2			○	講師 小野田直子	休講 休講
		遊戯療法特論	2			○	講師 橋本優	
産業臨床心理学特論		2			○			
学校臨床心理学特論		2			○			

	授業科目	単位数			開講学期		担任教員	備考
		講義	演習	実習	前学期	後学期		
人間科学研究領域	人間科学特論	2			○			休講
	人間形成特論	2			○		教授 大西勝也	
	人間科学研究法特論	2			○			休講
	応用心理学特論	2			○		講師 博士(心理学) 五十嵐由夏	
	心理学実験法特論	2			○		准教授 博士(学術) 前原吾朗	
	色彩環境心理学特論	2			○		講師 博士(医学) 三橋俊文	
	安全人間情報工学特論	2			○			休講
	神経心理学特論	2			○		講師 博士(文学) 伊藤博晃	
	高齢者環境特論	2			○		講師 中野泰志	
	認知障害特論	2			○			休講
	知覚情報心理学特論	2			○		教授 博士(工学) 吉澤達也	
	知識構造特論	2			○		准教授 博士(文学) 松永理恵	
	生涯スポーツ健康特論	2			○		教授 博士(学術) 渡部かなえ	
	コーチング特論	2			○		教授 大後栄治	
	運動処方特論	2			○		准教授 博士(医学) 石井哲次	
	生体機能特論	2			○		教授 博士(人間科学) 衣笠竜太	
	スポーツ社会学特論	2			○		講師 仲澤真	
	バイオメカニクス特論	2			○		准教授 博士(学術) 笹川俊	
	スポーツ心理学特論	2			○		講師 博士(教育学) 渋谷賢	
	産業人間工学特論	2			○			休講
	運動生化学特論	2			○		准教授 博士(学術) 北岡祐	
	地域調査法特論	2			○		准教授 博士(理学) 小泉諒	
社会統計法特論	2			○		講師 博士(国際関係論) 芝井清久		
地域社会学特論	2			○		准教授 博士(農学) 芦田裕介		
現代社会特論	2			○		教授 博士(人間科学) 笠間千浪		
環境科学特論	2			○		教授 博士(工学) 松本安生		
社会教育特論	2			○		教授 博士(学術) 齊藤ゆか		
演習・研究	人間科学事例研究		2		○		教授 博士(人間科学) 衣笠竜太 教授 博士(学術) 齊藤ゆか 教授 大後栄治 教授 博士(理学) 平井誠 教授 博士(工学) 松本安生 教授 間山広朗 教授 博士(工学) 吉澤達也 教授 博士(学術) 渡部かなえ 准教授 博士(農学) 芦田裕介 准教授 博士(学術) 北岡祐 准教授 博士(理学) 小泉諒 准教授 博士(学術) 笹川俊 准教授 博士(学術) 前原吾朗 准教授 博士(文学) 松永理恵	
	人間科学特別研究		4		○	○	教授 博士(人間科学) 衣笠竜太 教授 博士(学術) 齊藤ゆか 教授 杉山崇 教授 博士(人間科学) 瀬戸正弘 教授 大後栄治 教授 博士(理学) 平井誠 教授 博士(工学) 松本安生 教授 間山広朗 教授 博士(工学) 吉澤達也 教授 博士(学術) 渡部かなえ 准教授 博士(農学) 芦田裕介 准教授 博士(心理学) 麻生典子 准教授 博士(学術) 北岡祐 准教授 博士(理学) 小泉諒 准教授 博士(学術) 笹川俊 准教授 博士(学術) 前原吾朗 准教授 博士(文学) 松永理恵 准教授 博士(人間科学) 山蔦圭輔	

指導教授

1. 学生は、入学試験の区分により決定された研究領域・研究分野に所属し、指導を受ける担当教員（以下、指導教授という）から研究全般の指導を受けるものとする。
2. 指導教授は原則としてこれを変更することはできない。やむを得ない事情により変更する場合は、研究科委員会の承認を必要とする。
3. 指導教授が学生の研究上必要と認める場合には、従たる指導教授の指導を受けることができる。
4. 従たる指導教授はこれを年度ごとに変更することができる。
5. 従たる指導教授については、研究科委員会に届け出るものとする。

履修方法

1. 指導教授の指導によって、合計30単位以上を修得すること。学生の授業科目履修は、指導教授の指導および助言を得て行うものとする。
2. 指導教授による演習科目「人間科学特別研究」はこれを必修とし、2年間にわたり8単位を修得しなければならない。なお、指導教授が学生の研究上必要と認める場合には、従たる指導教授による演習科目「人間科学特別研究」を8単位まで履修することができる。修了要件単位に4単位まで算入することができる。
3. 修業年限の短縮が認められた者については、前項にかかわらず、演習科目「人間科学特別研究」を、指導教授の開講する科目4単位及び従たる指導教授の開講する科目4単位を修得すること。
4. 長期履修を認められた者（修業年限が3年または4年）については、指導教授による演習科目「人間科学特別研究」を8単位修得すること。なお、指導教授による演習科目「人間科学特別研究」、従たる指導教授による演習科目「人間科学特別研究」を長期履修終了時まで毎年度履修することができる。ただし、修了要件単位に算入できる修得単位は、指導教授による演習科目「人間科学特別研究」8単位、従たる指導教授による演習科目「人間科学特別研究」4単位を上限とする。
5. 指導教授が学生の研究上必要と認める場合には、他の研究科または学部の課程による単位を8単位まで履修することができる。
また、他大学大学院（神奈川県内の大学院間の単位互換協定校）の授業科目を10単位まで、「人間科学研究領域」の学生のみ履修することができる。
6. 上記5の修得単位は、8単位を上限として修了要件単位に算入することができる。
ただし、修業年限の短縮が認められた者については、学部の課程による単位を修了要件単位に算入することができない。
7. 講義科目「人間科学特論」および演習科目「人間科学事例研究」は、「人間科学研究領域」の学生についてはこれを必修とする。なお、演習科目「人間科学事例研究」は、2年次前期（修業年限の短縮が認められた者については1年次前期）に、原則として指導教授の開講する科目2単位を修得しなければならない。
8. 「臨床基本科目群」、「臨床実習科目群」及び「E群」の授業科目は、「臨床心理学研究領域」の学生のみ履修することができる。
9. 原則として「臨床実習科目群」の「臨床心理基礎実習Ⅰ・Ⅱ」及び「臨床心理相談実習Ⅰ・Ⅱ」は1年次に、「臨床心理実習Ⅰ・Ⅱ」及び「臨床心理相談実習Ⅲ・Ⅳ」は2年次に履修することとする。
10. 「臨床心理学研究領域」の学生で、「臨床心理士」の受験資格を取得しようとする者は、「人間科学特別研究」（2年間にわたり8単位を修得）のほかに、「臨床基本科目群」6科目12単位、「臨床実習科目群」8科目8単位に加え、A～E群から、それぞれ1科目、計10単位以上を修得すること。

論文提出要件

1. 修士論文の審査を申請し得る者は、博士前期課程2年次以上（修業年限の短縮が認められた者については博士前期課程1年次以上）に在学し、所定の授業科目について20単位以上を修得し、かつ、本研究科の指定する方法により外国語の学力に関する認定及び予備審査に合格した者に限る。

修了要件

1. 博士前期課程の修了要件は、本研究科に2年以上（修業年限の短縮が認められた者については1年以上）在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。

2020年度 人間科学研究科人間科学専攻博士後期課程 教育課程表(2017年度入学者から適用)

授 業 科 目	単位数		開講学期		担 任 教 員	備 考
	講義	演習	前学期	後学期		
人間科学文献研究		2	○		(臨床心理学研究領域) 教授 杉山 崇 教授 博士(人間科学) 瀬戸 正弘	
人間科学企画研究		2		○		
人間科学課題研究		2	○		(人間科学研究領域) 教授 博士(人間科学) 衣笠 竜太 教授 博士(学術) 齊藤 ゆか 教授 大後 栄治 教授 博士(理学) 平井 誠 教授 博士(工学) 松本 安生 教授 間山 広朗 教授 博士(工学) 吉澤 達也 准教授 博士(農学) 芦田 裕介 准教授 博士(理学) 小泉 諒 准教授 博士(学術) 前原 吾朗	
人間科学実践研究		2		○		
人間科学特殊研究		4	○	○		

指 導 教 授

1. 学生は、入学試験の区分により決定された研究領域・研究分野に所属し、指導を受ける担当教員（以下、指導教授という）から研究全般の指導を受けるものとする。
2. 指導教授は原則としてこれを変更することはできない。やむを得ない事情により変更する場合は、研究科委員会の承認を必要とする。
3. 指導教授が学生の研究上必要と認める場合には、従たる指導教授の指導を受けることができる。
4. 従たる指導教授はこれを年度ごとに変更することができる。
5. 従たる指導教授については、研究科委員会に届け出るものとする。

履 修 方 法

1. 指導教授の指導によって、合計20単位以上を修得すること。学生の授業科目履修は、指導教授の指導及び助言を得て行うものとする。
2. 指導教授による演習科目「人間科学特殊研究」はこれを必修とし、3年間にわたり12単位を修得しなければならない。ただし、修業年限の短縮(修業年限が2年)が認められた者については、2年間にわたり指導教授による演習科目「人間科学特殊研究」8単位、2年次修了までに従たる指導教授による「人間科学特殊研究」4単位を修得すること。
3. 指導教授による他の4つの演習科目はこれを必修とし、1年次に「人間科学文献研究」(2単位)及び「人間科学企画研究」(2単位)を、2年次に「人間科学課題研究」(2単位)及び「人間科学実践研究」(2単位)を修得しなければならない。
4. 指導教授が学生の研究上必要と認める場合には、従たる指導教授による「人間科学特殊研究」を、12単位まで履修することができる。ただし、修業年限の短縮(修業年限が2年)が認められた者については、8単位まで履修することができる。
5. 指導教授が学生の研究上必要と認めるときは、他の研究科又は本研究科博士前期課程による単位を4単位まで履修することができる。
また、他大学大学院(神奈川県内の大学院間の単位互換協定校)の授業科目を10単位まで、「人間科学研究領域」の学生のみ、履修することができる。
6. 上記4(ただし、修業年限の短縮(修業年限が2年)が認められた者については、4単位まで修了要件単位に算入できる)と5で修得した単位は、修了要件単位に算入することができない。

論文提出要件

1. 博士論文の審査を申請し得る者は、博士後期課程において、所定の単位を修得し、必要な研究指導を受け、かつ、本研究科の指定する方法により外国語の学力に関する認定及び予備審査に合格した者に限る。さらに、関連領域における査読付学術論文誌(紀要・技術報告等は除く)に第1著者として論文が1編以上(修業年限の短縮が認められた者については4編以上)受理されていること。

修 了 要 件

1. 博士後期課程の修了要件は、博士後期課程に3年以上(修業年限の短縮が認められた者については2年)在学し、20単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。

研究領域

人間科学研究科

[人間科学専攻]

担当教員	専門分野
麻生 典子	生涯発達心理学, システムズアプローチ, 親子関係支援, 非言語コミュニケーション
芦田 裕介	地域社会学, 農村社会学
北岡 祐	運動生理・生化学, エネルギー代謝, 骨格筋生物学
衣笠 竜太	筋生理学, 生体機能学
小泉 諒	人文地理学, 地理情報システム (GIS), 地域研究
齊藤 ゆか	生涯教育・社会教育学, ボランティア, NPO
笹川 俊	バイオメカニクス, 神経生理学, リハビリテーション科学, 福祉工学
杉山 崇	臨床心理学 (心理療法・異常心理学・うつ病学), 産業社会心理学・キャリアコンサルティング, 感情・認知パーソナリティ心理学
瀬戸 正弘	臨床心理学, 行動臨床心理学 (行動療法, 認知行動療法), 健康心理学
大後 栄治	コーチ学, スポーツ生理学
平井 誠	人文地理学 (特に人口地理学), 地誌学
前原 吾朗	実験心理学, 視覚, 触覚, 弱視
松永 理恵	認知科学, 認知心理学, 音楽心理学
松本 安生	環境科学
間山 広朗	教育社会学, 教育問題・教育実践の社会学, 質的社会調査法
山脇 圭輔	臨床心理学, 健康心理学, ストレス科学, カウンセリング
吉澤 達也	心理物理学, 知覚心理学, 視覚科学, 色覚科学
渡部 かなえ	健康教育学, 子ども環境学, 動作学